



# 関ロータリークラブ

RI会長 / バリー・ラシン

2018-19年度 国際ロータリーテーマ

インスピレーションになろう “Be The Inspiration”

53代会長 / 加藤浩二

2018-19年度 関ロータリークラブ会長テーマ

行動しよう! 情熱を持って

会長 加藤 浩二

副会長 大岩寿喜子

幹事 林 昇

## D2630 ROTARY CLUB OF SEKI WEEKLY REPORT

Rotary



本日のプログラム 第 2544 回例会 2019 年 6 月 4 日 (火)

「小瀬の鵜飼は守れるか 転換期を迎える “食料安全保障”」

共同通信社 岐阜支局長 石井勇人様



### 前例会の記録・第 2543 回 5 月 28 日(火)12:30

会員卓話 「市民トリアージ」

医師 藤井淳さん

#### ◆開会点鐘

#### ◆「四つのテスト」斉唱

#### ◆会長挨拶



本日の卓話は藤井先生に「市民トリアージ」についてお話しいたします。私が本年度 1 番習いたかった内容でございます。関市や我々の身のまわりでこのトリアージを行う事はまずないと思いますが、企業の代表であり、市民の中でも奉仕の理念を持ったリーダーとしての役割を果たす事があるならば、知っておいて無駄ではない事だと思います。どうか藤井先生よろしくお願ひします。さて、先週関ロータリークラブ主催の東海北陸道グループゴルフ会が行われました。皆さんの活躍によって優勝杯を奪還する事が出来ました。青年の部優勝が土屋会長エレクト、壮年の部 3 位に堀部さん、グロス優勝に高木道彦くんが選ばれました。先日、関ライオンズクラブから、6 月 5 日に関ロータリークラブの会長である私に卓話に来て欲しいと依頼がありました。ライオンズクラブは今年度、創立 60 周年でラオスに学舎の建設をされました。式典にもお招きいただきその活動内容をご報告いただきました。総事業費が 500 万円でラオスに学舎、宿舎を建設し、また日本の子供たちにラオスの同じ年頃の子供がこんなにも貧しくともたくましく頑張っている事を自分の目で見て頂き、日本の自分たちの置かれている環境がいかに恵まれている事を気付いてもらい、食の大切さ物の大切さ、兄弟の助け合いを学んでいただく事業で、本当に素晴らしい事業でありました。そこで関ロータリーも周年ではないものの引けを取らない事業を行なっておりますので、しっかりと関ロータリークラブの活動報告を行い皆様方の活躍を理解してもらってきます。そして、6 月 29 日よりスリランカに行き、救急車、消防車、広報車を直接大統領官邸で贈呈してまいります。

そこで皆様にお願ひががございます。今回のスリラ

ンカ訪問も関ロータリークラブの代表として訪問してくる為、バナーも持って行かせていただき、関ロータリーからの寄贈を訴えてくる予定です。当然帰国後は、報告もさせていただきますので、スリランカ訪問を事業として頂き、事業費をいただきたいと思います。来週、役員会において理事さんに協議いただくつもりです。ロータリーの心得に「利益」と題して、ロータリーで自分が得る利益は、経費と販売価格の間に生じた僅かな金銭利益のような、些細なものではない。利益とは、すべてのロータリアンが、より良く、より大きな人間となり、自分自身や同僚のロータリアンや世界全体に対して、より大きな奉仕を提供する機会が与えられることである。ロータリーは人間の外観を作るのではなく、人間の内面を作る。人は、ロータリーの中で成長することによって、素晴らしいロータリアンになっていく。と言う一文がございます。スリランカからの帰国は次年度の就任の総会日の 7 月 6 日です。フルに本年度事業を行ってきます。最後の最後までロータリアンとしての勉強をさせて頂けることに感謝して挨拶を終わります。

#### ◆委員会報告

◎出席委員会 委員 栗倉晋吾

会員 51 名中 出席 30 名 出席率 61.23%

◎ニコボックス委員会 委員長 木村聡

会長・副会長・幹事の皆さん・・・東海北陸道グループゴルフ会にご出席の皆様ありがとうございました。成績は後程、幹事報告にて発表させていただきます。本日は新会員の本田昇司さんの入会式を執り行います。新しい仲間入会を大歓迎でお迎え致しますので、皆様よろしくお願ひします。本日の卓話は会長たつての希望でトリアージについて藤井先生にお願ひしました。よろしくお願ひします。

酒井、林(隆)、西本、古田、福田、杉浦、土屋、木村、堀部、小原、栗倉、三輪の皆さん・・・藤井先生、本日は卓話ご苦勞様です。ドクターヘリのドラマ「コード・ブルー」で現場の様子を放送していましたが、トリアージのこと、詳しい説明を期待しています。

土屋佳久さん・・・先日の東海北陸道グループゴル

フ会でたくさんの方のハンディに恵まれ優勝することができました。個人優勝と団体優勝、関 RC ゴルフ会優勝ということで3ポイント投函させていただきました。(3P)

後藤、堀部、西田、山谷、臼田の皆さん・・・奥村敏教さん IGM ホストご苦労様でした。中村やのおいしい料理を楽しみながらロータリーの意味や役割について学びとても有意義な夜でした。リーダー後藤さんと堀部さんの硬軟取り混ぜたお話が聞けて最高でした。臼田さん IGM 報告の大役をお願いいたします。

福田春彦さん・・・妻へのバースデーカードありがとうございました。令和初めての誕生日を健康で迎えることができ、大変喜んでます。

#### ◆会員卓話 『市民トリアージ』

医師 藤井淳さん



トリアージという言葉は、元々「コーヒー豆の選別」に使われているフランス語の torier (より分ける) が語源で、ナポレオンが負傷した兵士の中から戦場に戻る兵士を優先的に治療するためにより分けたのが、医療でのトリアージの原点のようです。トリアージというのは、簡単に言えば「災害・事故現場などで一時に大勢の負傷者が発生した時に、重症度によって治療の順番を決めること」を言います。トリアージは、災害現場や救護所、病院前で行う1次トリアージと病院の中で医療従事者が行う2次トリアージがあります。地震や津波のような災害時は、まず救急隊がなかなか到着しない、あるいは負傷者の数の割に救急車の数が足りないと言う事態がおきます。こういう状況の時、被災した住民自らが1次トリアージを行う必要が出てきます。また災害の時ばかりではなく大きな事故でも同じような状況が起こります。たとえば JR 福知山線の脱線事故では、(2005年4月に起きた列車脱線事故で、乗客と運転士合わせて107名が死亡562名が負傷) 近くの住民が負傷者を担架で列車外に運び出し、歩ける負傷者を一ヶ所に集める作業を行っていました。このため救急搬送が効率的に出来たのですが、それでも死傷者があまりにも多く、救急車のみでは搬送が追いつかなかったため、歩行可能な負傷者はパトカーや近隣住民の自家用車などで病院に搬送されました。これらの結果、負傷者の半数は近隣の人々が医療機関に搬送しており、震災当時にみられたボランティアの精神が活かされていました。このように一度に多くの死傷者が出るケースでは、市民トリアージを含む1次トリアージが重要となります。今回の内容は、市民によるトリアージ普及を目指すNPO法人「災害・医療・町づくり」理事長を務める、静岡総合病院特別補佐官の安田清氏が書かれた「巨大地震 その時あなたを救うのは？市民トリアージ」という本とウェブのリスク対策.com やNHK スペシャルのホームページを参考にしています。その安田氏によると「被害想定を見れば、東海大地震が発生した場合、医師は自分の病院に搬送される被災者の対応だけで精一杯。救護所に駆けつけてトリアージができる医療関係者の数は限られる。その場合、市民は自分たちでトリアージを行わ

ざるを得ないだろう」と話しています。東日本大震災を受けて、2013年、南海トラフ巨大地震や首都直下地震の新たな被害想定が公表されました。被害が広範囲にわたるため、被災者のもとには一週間にわたり公的救助が来てくれなくなる恐れがあり、人々は自力で救助したり避難したりすることを迫られています。実際、阪神大震災の時、倒壊した家屋から誰が救出したのかというと、多い順に、①自力で脱出34.9%、②家族31.9%、③友人・隣人28.1%、④通行人2.6%、⑤救助隊1.7%でした。公的救助が来ないとき、一人でも多くの命を救うためにはどうすればいいのか。トリアージをする救急隊員や医療スタッフがいない現場では、地域住民による市民トリアージの必要性が出てきます。大災害の時に市民によるトリアージが実施できれば、効率的な医療を実現することができるでしょう。しかし、医療行為にあたるトリアージを、一般市民の手によって実施することができるのか？という疑問も出てきます。そこで安田氏は、一般市民でもトリアージができるよう、「スタート式トリアージ」を改良し、独自に「市民トリアージ表」を作成しています。「トリアージ実施基準」での分類は、優先度の第一順位(赤色タグ)は、体幹に重大な危険が迫っていて、速やかに救急医療機関で治療を開始すれば救命可能な人。優先度の第二順位(黄色タグ)は、今すぐ治療しなくても生命に影響は無いが、放置しておくとも生命の危険がある人。優先度の第三順位(緑色タグ)は、救護所または近所の医院での救護処置で間に合う人。優先度の第四順位(黒色タグ)は、体感や頭部に重大な損傷があり、既に亡くなりかかっている人、または既に亡くなっている人。市民トリアージ表では、まず四肢が2時間以上挟まれていたら最優先治療群(赤)に分類されます。(クラッシュ症候群)クラッシュ症候群とは、長時間、体の一部が圧迫された状態では、血液が行き渡らなかった部位が壊死し、そこからカリウム、ミオグロビン、尿酸などが血液中に大量に発生します。その部位が圧迫から解放されると、先ほどの物質が一気に全身に行き渡り、心停止や急性腎不全などを引き起こす可能性があるということです。倒壊した建物に挟まれた状態から救出された直後に心停止することがある為、救出活動中に多量の水を飲ませるようです。また、「歩ける」場合でも出血がひどかったり、骨が飛び出ているなど、一見して重症である場合は黄タグ(優先度の第二順位)となります。迷った場合には重い方のタグを選ぶようにする必要があります。通常医療現場では重傷扱いだが、災害時に緑タグ(優先度の第三順位)になるのは、①切り傷や裂け傷など、圧迫で止血が可能な場合、②やけどの範囲がからだの10%以下の場合(小児、高齢者は5%以下)、③骨折が四肢のうち1カ所であり、骨の露出がない場合などがあげられます。トリアージの判定基準は、怪我の度合いが「生命に関わるか否か」によって治療に優先順位をつけているためです。大切なことは、市民トリアージの役割は、病院に運ぶ重症者と救護所で応急処置をすればよい軽傷者を分けるということです。市民トリアージを行うためには、岐阜県内でももう少し市民トリアージの認知度

が高くなり、静岡県のように大勢の一般の人に理解してもらおうことが、大切だと感じています。トリアージする側がトリアージを理解しているのは当然として、トリアージされる側も理解していることが重要です。まずはこの地域のリーダーである会員の皆様方の理解が必要であり、会員の皆様方から従業員や地域住民にトリアージの認知度を広げてもらいたいと考えています。

#### ◆IGMの報告 報告者 臼田龍司さん

5月22日(水)に、ホスト奥村さんで、IGMが実施されました。場所は、関市の中むらやで行われました。リーダーは後藤さん、ロータリー情報は堀部さんが担当されました。出席者は、先程の3名に加えて 山谷さん、西田さん、私で、合計6人でした。テーマは「何の為にロータリークラブに入っているのか、そして、ロータリアンとして何を行うべきか」というロータリアンにとって初心に戻されるようなテーマでスタートしました。まずは、食事をいただきながら、順番にテーマについて自身の考えを語ることから始まりました。はじめは、ホストの奥村さん。清水善光さんから誘われ入会を決断されたそうです。入会前は、ロータリークラブというのは伝統があり、格式高くとても敷居が高く感じておられていたそうです。しかし、奥村さんは、お父様を早くに亡くされ、若いころから地元で必死に事業や営業活動を行い地元の皆様に助けられながらここまで来ることが出来たので、何とか地元に戻返したいと、非常に謙虚で、清らかな理由でロータリークラブに入会されたと感じました。まさに、ロータリアンとして相応しい方であると感じました。続いて、山谷さん。はじめは、大垣共立銀行の2階に食事をしにおいで!!と誘われたそうです。入会した当時は、年が近いメンバーがいなくて、少し寂しい思いもされていたようです。しかし、入会してしばらくすると、若い会員も増加し現在ではロータリーの仲間が事業活動や、社会で活躍している姿を見て、自身の活力となっているようです。次に、後藤さん。「私は、ロータリークラブに入りたくて入った」と声を大にしておっしゃっていました。お父様がロータリークラブに入会されていたそうで、お父様からの話や、昔は、IGMをご自宅で実施されていたようで、後藤さんは若い頃よりIGMなどのロータリークラブの集まりに、お父様によまれて、接待をされており、その際に、ロータリアンと接し、多くの刺激を貰うとともに、ロータリアンの紳士的な振る舞いを見て、自分も是非ロータリアンになりたいと強く思われたそうです。また、ロータリークラブは経営者の集まりである為、同級生や友達とでは成り立つことの無い、経営に関する会話が出来ることにも魅力を感じておられるとのことでした。続いて、堀部さん。ロータリークラブに入会する前に、JCで活動をされており、JCの活動を通し、多くの方から会社経営に対する知識や知恵を教わり、優秀な経営者から刺激を貰うことが出来たので、ロータリークラブでも自身を高めることが出来ると確信して入会されたそうです。JCとロータリーとの違いを、JCは40歳までの若者のトレーニングの場、ロータリーは完成した人々の中で交流をする場である。と

教えて頂き、完成された人がロータリアンであるとの考えに身の引き締まる思いでした。また、堀部さんはロータリーの考え方や活動に関して多くを勉強されており、当日、私も多くのことを学ばせていただきました。その中で、世界中でロータリーが一番安心して寄付をすることが出来る団体であり、ロータリーという団体に集まる寄付金の半分はロータリー以外の方々からの寄付であることや、ビルゲイツも毎年多くの寄付をロータリーにしていることなど、多くのことを教えて頂き、ますますロータリアンであることを誇りに思うことが出来ました。また、堀部さんからの情報で、他クラブで実施していることですが、11:30から例会場を開放して、例会が始まる前に会員が集い、いろいろな話が出来るところを提供しているクラブがあると伺い、確かに例会に出席しているだけでは、多くの話が出来ないので、非常に良い取組であると感じました。最後に、西田さん。もともと、関市の住人ではない自分にとって、関市の有力者が集まるロータリークラブに入り、知見を広げたかったことと、社会への奉仕活動がしたかったため、入会を決断したと伺いました。このころになると、お酒も進み、皆さんの本音や普段は聞けない話を伺うことが出来、大変貴重な時間を過ごすことが出来ました。最後に、このIGMで私が一番心に残った言葉が、堀部さんが話された、「ロータリークラブは金持ちの集まりではない 志の高い人間の集まりである」です。この言葉がとても印象的でした。確かに私も入会前は金持ちの集まりという間違った情報も記憶しています。しかし今は志の高い方々から多くを学ばせていただいております。自身も志を高く持てるよう今後も務めていきたいと思っています。このような貴重な場を提供していただいた奥村さんに感謝をし私の報告とさせていただきます。

#### ◆幹事報告

◎6月の例会予定表配布

#### ◆新会員入会式

氏名：本田昇司 生年月日：1972年5月15日

事業所：中華料理 しょうりゅう 代表

スポンサー会員：後藤信介、加藤浩二、岩倉宏幸



次例会のご案内 6月11日(火) 12:30  
「関市スポーツ推進委員の活動について」  
関市スポーツ推進委員会 会長 大野照美様

\*\*\*\*\*  
例会：毎週火曜日 12:30  
例会場：岐阜県関市本町6-20 大垣共立銀行関支店 2F  
事務局：岐阜県関市平和通7-10-25 アメリカ 2F